

私にとっての日本放射線化学会とは

福井工業大学 工学部 原子力技術応用工学科

砂川 武義



いくつか本学会にかかわる思い出を書きます。その思い出は、日本放射線化学討論会と放射線化学若手の会「夏の学校」におけるものです。

討論会では、発表練習と称して口頭発表前日に師匠の嶋森洋先生と居酒屋で約1升の酒を飲んで挑んだことや、懇親会で飲めることを楽しみに参加したことを思い出します。広島で開催された第56回討論会の懇親会で飲んだ日本酒の味が忘れられません。私の研究室では「飲む量とデータの量は比例する」や「研究に疲れたと思ったらそれは酒が切れたのだ」等の格言が嶋森研究室から引き継がれています。討論会での酒の席で様々な先生方から聞いた話（例えば籾野嘉彦先生からマイクロ波誘電吸収法に関する開発秘話等）は研究に役立つ内容が多かったことを記憶しております。

次に少し酔いが醒めるような話を記させていただきます。私は学部4年生のとき、大阪で開催された第34回討論会に初めて参加しました。嶋森研究室修士課程2年生の小川裕二氏の口頭発表が近づくと、一人の方が嶋森先生に近づき、私や小川先輩に聞こえる声で「嶋森君、若手が猿回しのようなことはしてはいけない」と言われ、「君の研究の内容に興味があるが、君の学生に私の質問が答えられるのか？ここは、討論会であり学生の発表の練習場ではない。学生の練習なら別のところで行えばよい」というような内容を話されました。後でその方が佐藤伸先生であることを教えていただいたのですが、その時、私は討論会の口頭発表に登壇することはとてつもなく大変なことなのだと思います。実際、私が嶋森先生より本討論会の口頭発表での登壇を許されたのは数年の修業を経た後だったと記憶しております。

若手の会「夏の学校」に関しては、六甲山で中川和

道先生と朝まで飲んで帰りの六甲山の下りのカーブで吐き続けた思い出や、後に共同研究を行う関修平先生や泉佳伸先生と出会えたことや、丑田公規先生の話に共感して博士課程へ進もうと決めたことなど、今の自分の人生に深い影響を与える人に出会えたことが、私の財産に成っております。2018年は若手の会「夏の学校」を本学で開催します。酒の好きな若手のみなさん楽しみにしておいて下さい。

本学会の会員としての思いを述べると、私が学振の特別研究員に採択された年、指導教官である嶋森洋先生が亡くなられ、途方にくれていた時、高椋節夫先生が私の指導教官になっていただいたことや、籾野嘉彦先生、田川精一先生、河内宣之先生、真嶋哲朗先生、私の先輩の辰巳佳次先生に大変助けをいただき福井工業大学に職を得て今があることや、「低圧ケーブルの劣化診断」で関修平先生、工藤久明先生、瀬口忠男先生、「放射線の可視化技術」で田口光正先生、林慎一郎先生、「生体分子への放射線照射効果」で泉佳伸先生と一緒に仕事をしていることを考えると、私自身が本学会に育てていただいているのだと思います。

次に、若手の方に以下の話を贈ります。4年前、私の学振の最後の指導教官であった菌頭健吉先生と飲んだ時、菌頭先生から「幸運の女神には前髪しかない」という話を聞き、酔っていた私は「私も後頭部が禿げたので幸運が来るんでしょうか？」とトンチンカンな話をしたことを覚えています。さらに、「人生の中で必ず3回は良い研究データをつかむチャンスがある」との勇気の出る話を聞き、いい気分だった次の日にPVAとKIを使用したゲル線量計を偶然に見つけました。なお、菌頭先生は禿げていません。

最後に、私が所属する原子力技術応用工学科において、嶋森洋先生が亡くなられて消滅していた放射線化学の講義を4年前から復活させることが出来ました。本学会へのわずかばかりの恩返しであると考えております。

What is Japanese Society of Radiation Chemistry for me?
Takeyoshi SUNAGAWA (Fukui University of Technology),
〒910-8505 福井県福井市学園3-6-1
TEL: 0776-29-2576, E-mail: sunagawa@fukui-ut.ac.jp